

社会人のための情報システム誌
— 経営近代化のシステム研究 —

Computer Report 1

2015 No.724

3 はじめの言葉

4 情報社会を整理する

解りそうで解らないもの

田原文夫

情報社会とは、コンピューティングリソースが普及し、システムリソースで満たされた社会という意味ではない。コンピュータシステムはあくまでも道具であり、情報処理をするのは人間である。言い尽くされたことでありながら、何故だか、いまだに情報処理をするということに多くの戸惑いがあるようだ。知識的には修得が進み、言葉や理論としては普及しているようだが、ビヘイビア（行動）としての情報処理ができていない。周辺の情報処理を整理してみた。

1 1 情報社会を考える その 5 2

情報社会作りに、どう関与し、どう貢献していくか

編集部

日本の脅威の根源

情報流出と言えば、即、個人情報だという空気にある。確かに、個人情報の漏えい／流出は決して歓迎すべきことではない。しかしこれが、情報社会における情報流出問題のほとんどすべてに近いような論じられ方、風潮はむしろ問題である。国家機密の特別秘密保護法が成立し、にわかに「国家機密情報とは」という別の観点から多くの注目が集まっている。確かに、国家機密という特別秘密に定義され、同法に抵触該当するものとは何かは、非常に難しい問題がある。十数年前の本格的なインターネット時代を迎えようとしていた時、各企業単位での情報セキュリティ問題がクローズアップされた。企業の経営トップが最高責任者となり、各企業単位でセキュリティポリシー（安全基本方針）を宣言し、それに基づき企業等組織全体として情報セキュリティ対策体制を構築してきた。その対象となった情報には、顧客および社員はじめ組織員の個人情報のほか、企業が保有する各種技術情報のほか、技術的ノウハウに関する情報、顧客との契約関連情報、取引先企業からの預かり情報など、企業が社会的に存続していくためのすべての情報が漏えい防止／流出防止の対象だとして列挙された（はずだ）。

1 3 日本再生／世界競争力回復のカギ

何故 M-B I M構築が必要か その 47

水田 浩

オープンガバメント OG 13 工業化社会をデジタル化する

社会全体が工業社会から情報社会に移る第一段階ではICT（情報通信技術）が個々の組織の効率化のために、それぞれが独立して導入され、第二段階では工業社会の組織はそ

のままにして組織間をICTで統合してゆく。社会全体を情報社会に変える準備段階である。第一段階での最初のデジタル化運動が 1994 年から世界規模で行われたCALS運動であった。そして次に行われたのが電子政府運動であった。

2 0 新春放談 知っているつもりで

知らない隣国事情

黒坂欣司

世界の一員として、我が国日本も隣国周辺および関係諸国との関係を健全に保つことの重要性を否定する人はいない。集団的自衛権の論議も、狙いとするところは、一方的に好戦的な姿勢を示そうとしている訳ではない。関係諸国との関係を維持するための政治形態の一部としての論議である。すでに戦争体験を持たない国民がほとんどとなった周辺隣国同士の付き合い方は、これからが正念場である。

2 6 連載 アーキテクチャ論 (45)

GSNによるアーキテクチャ評価

山本修一郎

国立大学法人 名古屋大学 情報連携統括本部 情報戦略室 教授

本稿では、連載第42回[1]で紹介したSubramanianらのNFR手法によるアーキテクチャ評価手法[2]に基づいて、GSN(Goal Structuring Notation)を用いてアーキテクチャを評価する手法を紹介しよう。本稿では、まずGSNによるアーキテクチャ評価手法を説明する。次いで、提案した手法をLAN機器監視システムに適用した結果について説明する。

3 6 IT新時代とパラダイム・シフト

第62回 空の産業革命を引き起こす

無人機ドローンとは

根本忠明

ドローン(Drone)と呼ばれる無人機が注目を集めている。遠隔操作による無人機のことである。「空の産業革命」を引き起こすと言われるほどの期待を集めている。ハイテク機能を搭載した革新的な無人機であり、様々な産業分野で実用化が試みられている。今回は、このドローンの話題の一端について紹介する。

3 8 続インテリジェンスへのいざない 60

誘導されないためのインテリジェンス醸成

今井 武

マスメディアを使って人心を誘導しようという試みは今に始まったものではない。ある方向に他人を誘導したいというのは、人間の性と言うべきかも知れない。それは人間だけの性かもしれない。もし、人間以外にも人間らしい動物がいたらどうか。人間として大いに気になる。

4 1 連載 四字熟語カトレーニング

すぎやまチヒロ

セミナー／講演会の講師紹介

ユーザー会/各種研究会/勉強会における
セミナー/講演会での講師をご紹介します。

クラウドサービス導入前のチェックポイント

クラウドサービスは果たしてTCO削減に寄与するか

レガシーマイグレーションの進め方と留意点

これからの企業情報システム構築のポイント

これからの金融情報システムの課題

役に立つ情報管理の実践と課題

情報セキュリティ監査の受け方／臨み方

リポジトリベースのシステム資源管理

その他 クラウドサービス導入にお悩みの方

など 各種コンサルティングも承ります

ご質問／何でも相談は下記まで
株式会社 日本経営科学研究所
ComputerReport編集部

cr-info@jmsi.co.jp

CR 選書のご案内

CR選書

改訂版
データ・ウェアハウス

定価 本体 2,816円+税 送料(〒300) A5版 289頁 石井 義興 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 目録が必要としているデータ	第七章 情報システム部門しかできないデータ・ウェアハウスのサポート
第二章 データベースとデータ・ウェアハウスの相違点	第八章 データ・ウェアハウスの構築とデータ移行ツール
第三章 OLAP用のデータ・ウェアハウス	第九章 データ・ウェアハウスの利用とエンドユーザーツール
第四章 リレーショナル・モデルとネステッド・リレーショナル・モデル	第十章 データ・ウェアハウスの保守とオートメーション
第五章 正規化の問題点とデータ・ウェアハウス	
第六章 データ・ウェアハウス管理システム	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

実践データ・ウェアハウス OLAP

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A5版 249頁 豊島一政・木村 哲 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 これまでのEUCIでできなかったこと	第七章 多次元データベースを作る
第二章 OLAPの定義	第八章 多次元データベースの構造
第三章 Code博士によるOLAPプログラムの評価ツール	第九章 多次元データベースとアプリケーション
第四章 分析処理の歴史	第十章 OLAP/サーバーとフロントエンド
第五章 OLAP(多次元データベース)の形	第十一章 OLAPアプリケーションパッケージ
第六章 データウェアハウスとOLAP	付録

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

消費者行動論

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 181頁 田原文夫 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 消費者行動論	第四章 消費者意志決定
第二章 消費者行動と心理的決定要素	第五章 消費者行動トピックス
第三章 消費者行動と社会的決定要素	第六章 人間であること(人間行動トピックス)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

aism 研究活動報告
インターネットセキュリティの落とし穴

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 197頁 一橋大学教授 安田 聖 監修 aism情報セキュリティ・マシントリプル研究会 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 落とし穴を回避するための基礎テクノロジー	第十一章 WORM、KLEZの監視と駆除記
第二章 aism情報セキュリティマシントリプル研究会の発足	第十二章 メールが通らない
第三章 認知される電子署名方式の基本原則	第十三章 生体ネット運用のための情報オーナーの建設
第四章 世界を駆けめぐったCodeRedワーム	第十四章 最近のインターネット防衛セキュリティ心得
第五章 情報システムにおけるリスク	第十五章 ITガバナンスの意識と情報セキュリティ対策
第六章 情報漏洩対策	第十六章 情報セキュリティ対策とセキュリティ教育
第七章 VPN(バーチャルプライベートネットワーク)	第十七章 ケーススタディ「情報セキュリティ教育」
第八章 aismの2014年度の事業計画	第十八章 セキュリティポリシー作成にあたってのノウハウ
第九章 情報セキュリティ情報研究会の発足と課題	
第十章 インターネット関連の苦情と不正アクセス	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

エンタープライズ情報システム設計の基本書！
トップ主導の情報システム革新

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 271頁 高田 顯重 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 情報システム利用環境の変遷と今日的課題	第五章 情報システム監査
第二章 経営活動と情報システム	第六章 情報システム部門の体制革新
第三章 経営情報システム革新の方向	第七章 情報システムの成果評価
第四章 トップ主導の情報システム開発	第八章 変化対応のシステム作り

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

計量モデルの構造と解法
—オーダーリングとスパース—

定価 本体 3,000円+税 送料(〒300) A4版 213頁 安田 聖 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一部 計量モデル	第二部 大規模モデルの効率的解法
第一章 計量モデルと計量モデルの解法と歴史	第五章 計量モデルの分解方法
第二章 線形計量モデルの解法	第六章 方型式のオーダーリング
第三章 非線形計量モデルの解法	第七章 大規模モデルの解法
第四章 反復法の問題点	第八章 スパース
付録・電子計算機の高速化と計量方法	

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

CR選書

『いざ！というときの得広報』
すぐに役立つ実践117カ条

定価 本体 1,748円+税 送料(〒300) A5版 228頁 加藤 洋一 著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

■ 広報ビジネスの前提条件	■ 売定文も企業体質
■ ニュースリリースは東方向選定	■ 守るも攻めるも広報が窓口
■ 活字媒体の特性をチェックする	■ あなたならどう対応する「事例編」
■ 記事の材料(ネタ)と発表のテクニック	<付> 監修とうまく付き合う16の鉄則(まとめ)

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp

ザ・ワールドリンク
がんばれ、国際グローバルサーバー—
IBM社に挑んだ国際情報システム作りの物語

定価 本体 1,848円+税 送料(〒300) A5版 268頁 迫 忠幸・湯浅 誠 共著 (株) 日本経営科学研究所 発行

目次

第一章 発端	第十一章 日本開発手法の違い
第二章 あるプロジェクト	第十二章 米商チーム崩壊の危機
第三章 新しいシステムへの働き	第十三章 新たな仲間
第四章 WOOIに向けて	第十四章 米商専務所長と新たな組み
第五章 FJO、IBM競争	第十五章 開発フル稼働とバレンタイン
第六章 日本プロジェクトチームの発足	第十六章 ユーザー教育
第七章 プロジェクト開始	第十七章 日本運用体制と本番後日誌
第八章 米商チーム立ち上りの流れ	第十八章 既存システムとのデータ交換の問題
第九章 大きな壁、英語コミュニケーション	第十九章 稼働その一 直前、稼働、直後の苦しみ
第十章 米商チーム、異なる三人組	第二十章 稼働その二 安眠後編と北米センター移設

お申し込み/お問い合わせは cr-sale@jmsi.co.jp